

子どもを守るために家庭でできること

フィルタリングを設定しましょう

インターネットを通じた犯罪に巻き込まれた児童生徒のうち、95%がフィルタリング（未成年にふさわしくない有害なサイトの閲覧防止サービス）をかけていませんでした。子どもを危険から守るためにも、親子で相談してスマホの設定によるフィルタリングや通信会社の提供するフィルタリングサービスなどを活用しましょう。

家庭で見せる子どものSOSサイン

ネットのトラブルから、実際のいじめなどにつながる可能性があります。以下のSOSサインを参考に日頃から子どもの様子に気になる点がないかチェックしましょう。

- 学校の話・友達の話をしなくなる
- 妹・弟をいじめるようになる
- SNSやスマホの着信内容を親の前で見なくなる
- 成績が急に下がる
- 親が話し掛けてもぼーっとして他のことを考えていることが多くなる
- 学校用品をなくすことが多くなる
- お金の使い方が荒くなる
- 学校用品に落書きや破損の跡がある
- 髪の毛が不自然に切られている。体に見慣れない傷・あざがある
- 大笑いすることがなくなる。顔が笑っていても引きつるようになる
- 食欲がなくなる
- 不眠が続く。寝ていてもうなされたり、寝汗をかいたりすることが多くなる
- 微熱・吐き気・腹痛・頭痛を訴えることが多くなる
- 休みの日に親と外出したげらなくなる
- 朝、なかなか起きてこなくなる
- ため息が多くなり、親と目を合わせるのを避けるようになる
- 今までと雰囲気の違う友達と付き合いようになる
- 妙に暗くなったり、キレやすくなったりする

参考 「子どものスマホ・トラブル対応ガイド」(安川雅史 著)

インターネットを利用している児童生徒のうち、多くが「インターネット上に友達や恋人がいる」と答えています。しかし、ネットにおける情報は信頼性に欠けるものも多く、相手の本心などを見抜くことは困難であるといえます。辛くなったり苦しくなったりした時には、ネット上で助けを求めるのではなく、身近な友達や家族、学校に相談するなど、この機会にインターネットとの上手な付き合い方について家庭で話し合ってみましょう。



子どもを取り巻くネット環境

問合せ 市役所学校教育課
0587(32)1436

インターネットの普及

令和2年度に行われた調査によると、小・中学生の90%以上がインターネットを利用してあり、スマートフォン（以下、スマホ）などは、今や日常生活に欠かせないものとなっています。

その上、「コロナ禍において子どもたちが家庭で過ごす時間が増えたこともあり、「新型コロナウイルス感染症の影響による子どものインターネット利用の変化」についての調査では、全体の約50%

小学生の91%
中学生の97%
がインターネットを利用

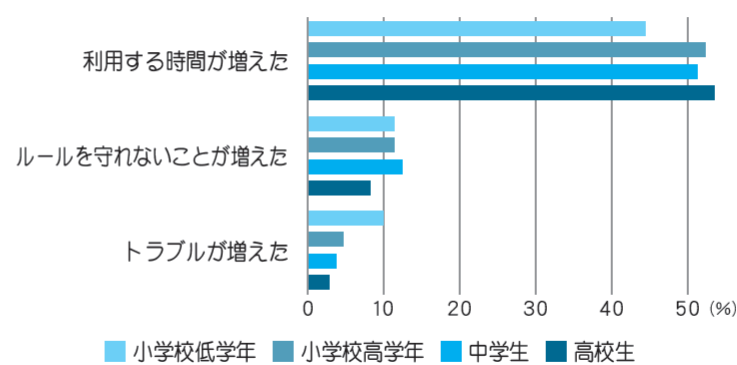


ネットを利用する機器は
スマートフォン 70%
携帯ゲーム機 34%



令和2年度「青少年のスマートフォン・携帯電話の所有・利用状況」の調査（内閣府）

新型コロナウイルス感染症の影響による子どものインターネット利用の変化



令和3年度「家庭における青少年のスマートフォン等の利用等に関する調査」(都民安全推進本部)

が「利用する時間が増えた」と回答したほか、約10%が「ルールを守れないことが増えた」と回答しました。「トラブルが増えた」は全体の6%でしたが、年代が低いほどその比率は高くなり、小学校低学年は10%と他の年代の2倍以上となりました。

ネットのトラブルから子どもを守るために

市内の各学校では、「スマホ安全教室」を開催し、情報モラルの啓発や指導を行っています。しかし、自室に一人でいるときなど、子どもがスマホをどのように使用しているのか、保護者や学校も把握しづらい場合が多くあります。

使用に関しての家庭でのルールや保護者の管理をおろそかにすると、ネットでのトラブルやいじめなどの問題に発展する可能性があります。子どもたちをネット上で被害者・加害者にさせないために、また、スマホ依存症などから守るためにも、インターネットへの危機意識をしっかりと高めておく必要があります。



▲スマホ安全教室の様子